

(様式第2号)

平成22年度 農業主導型6次産業化整備事業実施計画

1 6次産業化法人について

(1)6次産業化法人の概要

6次産業化法人の名称	組織の形態	代表者名	設立年月日
(有)那須高原今牧場	農事組合法人以外の農業生産法人	今 耕一	平成6年7月25日
主たる事務所の住所	栃木県那須郡那須町大字高久甲5898		セキュリティに配慮し、 非公開といたします。

(2)6次産業化法人の構成員

構成員の氏名	年齢	住所・所在地 (都道府県市町村名)	出資金額	出資比率	備考 (農業生産法人である場合)
当該項目については個人情報を含むため、 非公開といたします。					
			3,000,000 円	100.0 %	

(注) 備考欄には、農業生産法人である場合に農地法第2条第3項第2号に掲げる要件のいずれかを記入すること。この場合、常時従事者は「常」、農地等の使用収益権を移転・設定しているときはその旨を記入すること。

(3)6次産業化法人の経営状況

項目	
総収入(A)	当該項目については個人情報を含むため、 非公開といたします。
総支出(B)	
売上高(C)	
営業利益(D)	
経常利益(E)	
当期利益 (A-B)	
総資本(G)	
自己資本(H)	
総負債(I)	
収支率 (A/B×100)	
総資本経常利益率 (E/G×100)	
売上高経常利益率 (E/C×100)	
負債比率 (I/H×100)	

- (注) 1 総収入=売上高+営業外収益+特別利益
2 総支出=売上原価+販売費及び一般管理費+営業外費用+特別損失
3 営業利益=売上高-売上原価-販売費及び一般管理費
4 経常利益=営業利益+営業外収益-営業外費用
5 負債比率=総負債(他人資本)÷自己資本×100

(4)6次産業化法人の現状及び課題

<p>現状と課題</p>	<p>[概要] 当牧場は冷涼な気候と広大な土地基盤を有する那須地域において、酪農及び肉用牛の生産を続けてきました。 近年は飼料生産の向上に努めることで、経費削減による経営向上を図って参ります。 また、酪農の振興のため、酪農に興味や意欲がある方に体験牧場(酪農実習)という形で、酪農の普及や理解していただく啓蒙活動を行っています。</p> <p>[沿革] 平成6年 有限会社 那須高原今牧場設立 平成18年度 畜産基盤再編総合整備事業(那須高原地区) フリーストール牛舎 堆肥舎建設飼料畑造成整備 平成21年度 畜産経営向上支援リース バンカーサイロ建設</p> <p>[商品] (現状) 生乳、肉用仔牛、和牛</p> <p>[所得] 構成員1人当たり3,720千円</p> <p>[雇用] 常時雇用1人 パート3名</p> <p>[事業に取り組むこととなった背景] 生乳の消費が低迷している状況で、現状の販売方法や経費削減のみでは、今後の経営を継続する上で限界を感じている状況です。そのため、自家生乳のチーズを生産し、新たな販路を獲得することで増収を図る事が出来るのではないかと考え、次女が大学卒業後、北海道、イタリアでチーズ製造技術を習得させてきました。一通りの製造技術を習得することができたため、本事業により、農畜産物加工・販売施設の整備に取り組むこととしました。</p>
<p>6次産業化の展開方針</p>	<p>[6次産業化の展開方針] 安定した原料確保のため、飼育頭数の酪農生産基盤の強化を図ります。 品質の良い生乳からチーズを年間約7t製造販売します。 販売は、年間500万人の当地域への観光入り込み客を取り込む整備施設での直接販売及び県下有数の観光地である那須高原のレストラン及びショップ等に卸すことにしています。 具体的には、友愛の森直売所(道の駅)、リゾートホテル等を経営する二期倶楽部、ホテルエピナール那須、りんどう湖ロイヤルホテル等を予定しています。 なお、将来は都内の外食産業へ営業を向け販路の拡大を進めていく予定です。</p>

①農業生産

作物・部門別	計画時		目標年度	
	作付面積等	生産量	作付面積等	生産量
生乳	160 頭	1,435 t	182 頭	1,583 t
肉用牛	80 頭		122 頭	
	ha	t	ha	t

②加工(2次産業分野)

作物・部門別	内容	製造量	
		計画時	目標年度
チーズ	自家生乳加工(5タイプ7種類)	0 t	7.31 t
		t	t
		t	t

③流通・販売(3次産業分野)

作物・部門別	内容	販売額	
		計画時	目標年度
チーズ	5タイプ7種類	0 千円	32,580 千円
生乳	生乳	136,228 千円	143,478 千円
肉用牛	仔牛、和牛	18,874 千円	27,178 千円
合計		155,102 千円	203,236 千円

3 成果目標及び達成プログラム

(1) 目標設定

項目	計画時 (平成22年)	1年度目 (平成22年度)	2年度目 (平成23年度)	3年度目 (平成24年度)	4年度目 (平成25年度)
(所得の向上に関する成果目標)	155,102 千円	155,102 千円	173,380 千円	186,545 千円	203,236 千円
売上高の増加	0 %	100 %	112 %	120 %	131 %
(雇用の創出に関する成果目標)	1 人	1 人	2 人	3 人	3 人
(地域の活性化に関する成果目標) [インターンシップ・ チーズ講習会・ 酪農教育ファームの開催]	インターンシップ10回 酪農教育ファーム36回 チーズ講習会0回	インターンシップ10回 酪農教育ファーム36回 チーズ講習会0回	インターンシップ10回 酪農教育ファーム36回 チーズ講習会2回	インターンシップ10回 酪農教育ファーム36回 チーズ講習会3回	インターンシップ10回 酪農教育ファーム36回 チーズ講習会4回

(2) 目標設定の考え方

項目	目標設定の考え方 売上高の内訳
(所得の向上に関する成果目標) 売上高の増加	自家産生乳を利用したチーズづくりを加味した、酪農加工販売及び酪農経営の拡大により、 203,236千円の売上を見込んでいる。
(雇用の創出に関する成果目標) 雇用者の増加	2年目の23年度は2名、3年目の25年度から3雇用を計画している。
(地域の活性化に関する成果目標) [地域の担い手確保、消費 者状態理解、チーズ製造技 術の普及拡大]	インターンシップ: 酪農担い手確保のため、同業、他産業を問わず、インターンシップ希望者を年10回程度受け入れており、今後とも同程度の受入れを計画している。 酪農教育ファーム: 牛乳の生産現場の現状を理解してもらうため、小中学生を始め一般消費者の酪農体験を実施する。 チーズづくり講習会: 当地域は、チーズづくりのための施設、技術者が少ないため、チーズづくりの普及拡大のため、講習会を年4回程度開催する。

4 整備計画等

(1) 機械・施設等の整備計画

No.	事業主体名	整備内容		工期		機械・施設の 設置・保管住所
		施設名	事業量 (規模、台数等)	着工 年月日	竣工 年月日	
1	(有)那須高原今牧場	農畜産物加工・販売施設	164.44 m ²	平成23年2月15日	平成23年3月31日	栃木県那須郡那須町大字高久甲5898
2						
3						
4						
5						

No.	総事業費	負担区分			担保		備考
		国庫補助金	自己資金	その他	金融機関名	償還年数	
1	79,574 千円	37,892 千円	41,682 千円		日本政策金融公庫	15 年	補助率1/2以内 除税額 3,789千円 うち国費 1,894千円
2							
3							
4							
計	79,574 千円	37,892 千円	41,682 千円				

- (注) 1 工期欄には、申請時にあっては着工及び竣工予定年月日を、実績報告時にあっては実際の着工及び竣工年月日を記入すること。
- 2 担保欄には、補助対象物件を担保に供し、自己資金の全部又は一部を金融機関から融資を受けようとする場合に記入すること。
- 3 備考欄には、国庫補助率を記入するとともに、仕入れに係る消費税等相当額について、これを減額した場合には減額した金額を、仕入れに係る消費税相当額がない場合には「該当なし」と、仕入れに係る消費税等相当額が明らかでない場合には「含税額」とそれぞれ記入すること。
- 4 補助金実績報告時において、承認のあった事業実施計画のうち整備計画の内容に変更が生じた場合には、本様式の4の(1)整備計画を修正して添付すること。

(2) 事業費低減の方策

施設等名	事業費低減の具体的方策
チーズ製造設備	一般競争入札により事業費の低減を図る

(3) 関連事業

他の補助事業で整備した機械・施設等

事業名	事業内容	実施年度	利用計画	利用実績	利用率(%)
畜産基盤再編総合整備事業 (那須高原地区)	フリーストール牛舎・堆肥舎建設	平成18年度	既存フリーストール92頭と新規フリーストール108頭、成牛合計200頭を飼養	成牛160頭	80%
畜産基盤再編総合整備事業 (那須高原地区)	飼料畑造成整備	平成18年度	デントコーン飼料畑 4ha	4ha	100%
畜産経営向上支援リース	バンカーサイロ	平成21年度	H22年より利用開始(345.84m ³)	450m ³	100%

(4) 機械・施設等の利用計画

事業実施主体 (管理主体)	構造・規格	規模・台数	管理運営 従事者	利用(稼働)期間	施設運営に係る 収入/年間(千円)	施設運営に係る 支出/年間(千円)
(有)那須高原今牧場	チーズ工房 チーズ製造設備	1棟164㎡ 1式	常時雇用 3人	製造日数242日 販売300日	(内訳) 販売金額32,580	(内訳) 19,173

対象作目	稼働計画(処理量)/年間	適正かつ十分な利用が見込まれる理由
チーズ生産	チーズ生産7.31t チーズ販売32,580千円	チーズ生産については、年間242日を計画し、一般販売、卸販売においても顧客の要望に応じるため年間300日の販売・納品を行う。また、自家産生乳を利用することにより、販売を安価にすることができる。

(注)1 機械・施設等ごとに作成すること。

2 処理量は機械・施設等に応じて、(t・千円・ha)等を記入すること。

5 費用対効果分析

項目	効果等	備考
総事業費:A(千円)	79,574	別紙1
1 効果の内訳(年効果額):B(千円)	8,633	
(1)直接効果	5,016	
①生産向上効果	25,562	
②経費節減効果	△ 20,546	
③経営基盤保全効果	0	
④農外所得増加効果	0	
(2)間接効果	3,617	
①地域所得増加効果	3,617	
②洪水防止効果	0	
③水源かん養効果	0	
④土壌浸食防止効果	0	
⑤土砂崩壊防止効果	0	
⑥有機性廃棄物処理効果	0	
2 直接効果比率:直接効果額/年効果額	58%	
3 廃用損失額:C(千円)	0	
4 還元率:D	0.100	
5 総合耐用年数	13.00	
6 妥当投資額:E=B/D-C	86,196	
7 投資効率:F=E/A	1.08	